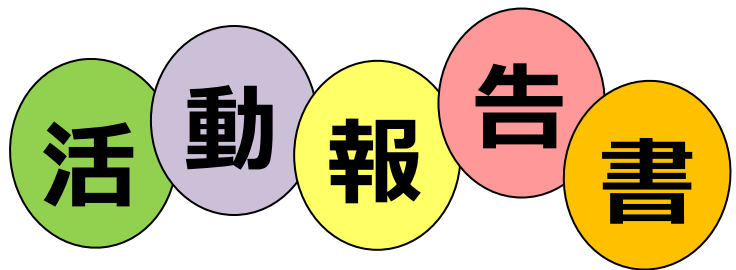
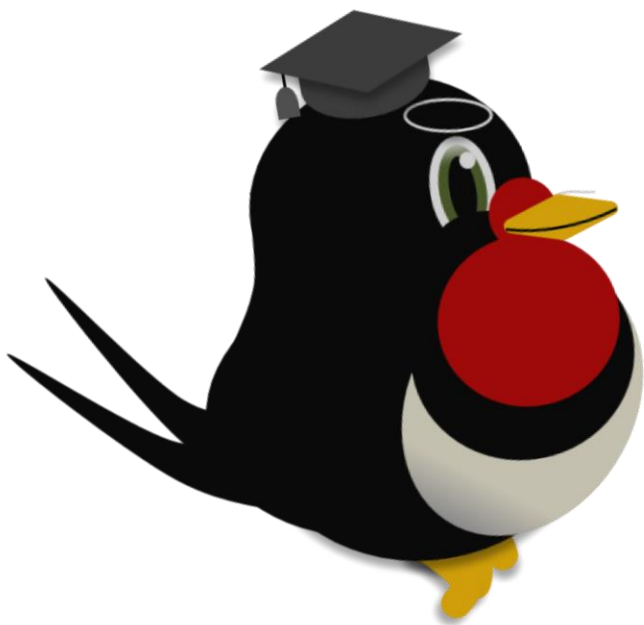


令和元年度
羽ばたけつばくろ
応援事業



燕市教育委員会

～小学生から20歳までのみなさんの『夢』を募集します～ 羽ばたけつばくろ応援事業

燕市では、若者の主体的な活動を応援する、「羽ばたけつばくろ応援事業」を実施しています。

対象は、「燕市に住所を有する高校生から20歳までの個人」または「燕市に住所を有する小学生から20歳までの者が代表となる団体・グループ」とし、将来を担う人材の育成を目指します。

若者が将来なりたい自分を設計し、実現するための自己啓発、体験活動、学習、研究、視察などの活動や、地域で取り組むイベント、地域活動など社会参画事業の企画を募集し、個人は10万円、団体は25万円を限度にして補助を行います。

若者たちの「達成したい目標」、「叶えたい夢」、「住んでいるまちをもっとよくしたい」の実現に向け一歩踏み出すきっかけづくりを応援していきます！

なお、本報告書は令和2年2月1日（土）に開催した「羽ばたけつばくろ応援事業成果報告会」における4団体1個人の成果報告の概要を取りまとめたものです。

●審査委員長 長岡技術科学大学 伊藤 敦美 准教授による講評



今日の報告会の前に6月の審査会のことを色々と思い出していましたが、皆さん審査会の時より堂々としていて、これもこの活動の成果の一つなのではないかと思えます。

各団体・個人への講評

【燕東小学校 しん ZENSIN アミーゴ 55】

修学旅行でのチャレンジを中心にいろんなことに挑戦したという、今回の経験を通して、自分たちの町で作ったものが素晴らしいものであるということがよく分かったかと思えます。

今回の経験をどんどん発信して行ってほしいと思えます。

【小池中学校生徒会】

今回、地域の人たちとの交流に加えて、留学生と交流し、異文化に触れることで、燕から世界へ視野が広がったのではないかと思えます。海外には燕にないものがたくさんありますし、逆に海外を見ることで燕の良さに気づくこともあるかと思えます。次はぜひ海外へ飛び出して行ってほしいです。

【阿部詩央里】

今回の孤児院などでの活動を通して得た学びで、将来の夢に近づけたのではないかと思えます。ぜひ頑張ってください。

【分水高校 吹奏楽部】

事前に演奏曲のアンケートを取って、参加者の気持ちに寄り添ったコンサートを開催し、大成功だったそうですね。皆さんのように外に出かけて行って活動することをアウトリーチ活動といい、今とても注目されているそうです。こうした活動を専門的に行っているアーティストやホールがあるので、今後も継続を希望するのであれば、アドバイスをもらってさらに活動を広げていくともっと素晴らしいものになるかと思います。

【吉田高校 和菓子考案の有志】

吉田高校の皆さんの活動は、人に喜ばれるもの、かつ自分たちが作りたいなと思うものを形にして売り出すといった、燕でも行われているものづくりの原点のような活動だと強く感じました。こういった経験を高校生でできたのは素晴らしいと思います。ぜひこの経験を将来に生かして、素晴らしいものや、サービスを燕から発信していく担い手になってくれればと思います。

今回の報告会では皆さん共通して、住んでいるとなかなか気付くことのできない燕の魅力を伝えてくださいました。この魅力を皆さんの中で留めておくだけでなく、ぜひ外に向かって発信してほしいと思います。

今、燕に住んでいる人にとっては、「この町に住んでいてよかったな」と思ってもらえる、そして外に住んでいる人には、「燕に行ってみたい、住んでみたい」と思ってもらえるようになっていくと、この活動の成果がもっと深まるのではないかと思います。

夢は頑張れば叶うこと、そしてその夢を本気で応援してくれる大人がいるという今回の経験を忘れないで大人になってほしいと思います。

●鈴木 力燕市長による労いの言葉



羽ばたけつばくろ応援事業に挑戦してくれた皆さん、本当にお疲れさまでした。素晴らしい発表でしたし、素晴らしいチャレンジだったと思います。皆さんの活動に心から賞賛の言葉を贈りたいと思います。

この事業は、児童生徒たちが自分の夢、あるいは社会参画ということに対して、主体的に実現しようと取り組む、それを応援する事業です。

これから皆さんが大人になっていく社会は、学校で学んだような答えがある問題に取り組む時代でもなくなってきています。先生が教えてくれたことをしっかり学び、暗記し、公式に基づいてやれば必ず答えが出るような課題や問題は、大人になって社会に出ていくとほとんどありません。自分で答えを作り出す、あるいは、選択肢を作っていかななくては、社会の中でいい答えを見つけることはできなくなってきます。その、答えがない問題に取り組んでいくためには、いろんなことにチャレンジして試行錯誤しながら、たまには失敗して「じゃあこうすればいいんだ」ということを、繰り返し繰り返し経験しながら能力を向上させていく、そういうことが必要です。この事業は、児童生徒の時代からいろんなことに挑戦していくきっかけを作るための事業です。

今回の小学生から中学生、高校生の取り組みを見て、いろんなことに挑戦しながら、きっと正解は導き出せなかったかもしれませんが、新しい発見をしてくれたのではないかと思います。その発見から次のことに挑戦しようという目標や夢ができて次のチャレンジに繋がっていくということになっているのではないかと思います。

各団体・個人への講評

【燕東小学校 しん ZENSIN アミーゴ 55】

今年は何度も会う機会があり、市長室を訪問してくれて、修学旅行でやりたいと思っていることを聞きました。出張で燕三条駅に行ったとき偶然皆さんに出会いました。その後も、燕のお祭りなどで見かけると「アミーゴの子たちだ」という風に声を掛けさせてもらったりしていました。その後も会う機会があり、皆さんは私の中に相当インプットされた児童たちだと思います。最初は修学旅行で燕のことを発信するというテーマだったのが、その後もいろんなことを更に継続して、産業だけでなく、まちづくりなどいろんな人たちと更に関わりを持ちながらどんどんと学んでいるという発表がありました。とても感動的でした。

【小池中学校生徒会】

「糸半プロジェクト」は先輩方が始めた企画ですが、きっと先輩方の取り組みをいかに受け継ぎながらも自分たちの代では何をやるか新しいことを考える、それがまた一つの苦労であり、楽しみであるかと思います。今回は異文化交流ということ自分たちの世代のテーマとして掲げて取り組んだということ、素晴らしいと思います。糸半プロジェクト、燕市内ではもう小池中学校の代名詞になっているかと思います。この活動が全国に発信できるように、この伝統を後輩たちに繋いでいってほしいと思います。

【阿部詩央里】

阿部さんは子ども広報の記者の時からずっと燕市の事業に関わってくれています。いろんな事業をするたびに必ず来てくれて、ついに一人で海外へ行き、私が考えている色々な事業の典型的なモデルとしてどんどんチャレンジしてくれて、阿部さんの成長が凄く楽しみです。将来の夢に向かってどんどん挑戦してってください。

【分水高校 吹奏楽部】

これまでも、施設に訪問して行って演奏するという機会があったかと思いますが、ですが、今回、その伝統の中で皆さんの世代で羽ばたけつばくろ応援事業という燕市の事業に応募して、それを一つのきっかけにしながらさらに今までの取り組みを発展させようというチャレンジをしてくださいました。分水高校では、答えのない社会で生きていくためにはこんな能力を身につけなくてはならないという授業をさせていただきました。その授業通りに果敢に挑戦して行動してくれていることを嬉しく思います。これからもどんどん色々なことに挑戦して行ってください。

【吉田高校 和菓子考案の有志】

成果報告を聞いていて、考案する中でいろんな試行錯誤、トライアンドエラーをしながら良い商品を作り上げていくというそのプロセス、素晴らしかったと思いますし、生徒の皆さんのためにもなったのだと思います。さんフェア新潟に出品するところから発展して燕市内で開催したスイーツグランプリにも挑戦してくださいました。私もスイーツグランプリに行って、皆さんの和菓子を手に取り買いました。美味しかったです。これから、いろんなことに挑戦していただきたいと思います。



世界に誇る燕 SPIRITS～ものづくりの町「燕」を TOKYO で語ろう～



【団体名】 燕東小学校 しん ZENSIN
アミーゴ 55

【代表者名】 坂爪 清純

| | |
|--------------|---|
| <p>活動の目標</p> | <p>自分たちが調べ、見学、体験して感じた「燕のものづくり」のすばらしさを東京でPRしたり、東京にある「燕のものづくり」を見聞したいすることで、ふるさと燕の良さを再確認するとともに、「燕愛」を深める。</p> |
| <p>活動の内容</p> | <p>自分たちが感じた燕の製品のすばらしさや職人のこだわり、思い、相手意識（燕 SPIRITS）をPRするためのキャッチコピーやパンフレット、ポスター、のぼり旗、歌、CMを作成した。ポスターやパンフレットは見学させてもらった工場や市役所や公共施設等に配布した。</p> <p>東京の修学旅行で、GINZASIX 玉川堂とイタリアンレストラン bit 銀座店に行き、燕の製品を見たり、燕の製品で食事したりした。ツインバード東京支社と三菱地所で「燕 SPIRIT」をPRした。また、三菱地所では、未来の街についてクリエイターと話し合う「ゆめこうかん」をした。</p> <p>東京修学旅行の成果をお世話になった方々や燕のものづくりに関係している方々に報告した。（保護者、5年生、金型共和会、見学等でお世話になった工場等の方を招待した会、燕ライオンズクラブ）</p> |
| <p>活動の成果</p> | <p>様々なPRグッズを作ることを通し、企画力、構成力、インパクトのある言葉を選ぶ力が身に付いた。</p> <p>東京で燕の製品が輝いていることを体感したことで、燕の製品に誇りをもつことができた。また、東京や燕でPRした「燕 SPIRIT」が大人の心を動かすことができたことで、自分たちの学びに自信がもてた。</p> <p>地域のことを調べ、まとめ、発信する活動を繰り返したことで、生まれ育った燕という場所、人、ものづくりに誇りと敬意をもつことができた。</p> |

| | |
|---------|---|
| これからの目標 | 自分を育ててくれた、燕の町への思い「燕愛」が深まったことから、自分も「燕市の町づくり人」という気概をもち、燕市がよりよい市になるためにできることを考えていく。（具体的には、現在、燕市で活躍する方々と共に、燕市の未来を考えている。）「私たちの考える燕市の未来」をテーマにした意見文にまとめ、金型のタイムカプセルに入れ、8年後（二十歳になったとき）に開封する予定である。 |
|---------|---|

糸半（いとはん）プロジェクト～企業の魅力発信・異文化交流～



【団体名】 小池中学校生徒会

【代表】 小倉 生意

| | |
|--------------|---|
| <p>活動の目標</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・糸半プロジェクトを通して地域の方々への恩返しをする。 ・地域の方々と顔と顔が見える関係となるようにする。 ・国際交流を通じて、企業と学校の結び付きを強める。 |
| <p>活動の内容</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・国際交流の活動においては、文化理解相互セミナーを開催し、全校生徒と留学生の交流会を行った。 ・糸半講演会における会社企業からの講話については、株式会社 MGNET 武田社長、ゲストハウストライアングル沼田代表から、全校生徒に講話をしていただきました。他には、卒業生の新潟高校校長の市川様、まもる眼科院長宗村様、ホテル小柳社長の野澤様から全校生徒に講話をしていただいた。 ・糸半新聞とポスターを制作し、市内の公共施設等に掲示してもらう。 ・地域クリーン作戦、植栽活動、吹奏楽部ボランティアコンサート、クリスマスリース制作などの他、地域防災訓練では、3年生が防災グッズづくりを地域の皆様に発表した。 |
| <p>活動の成果</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・糸半プロジェクトが地域に広く認知されるようになってきている。 ・地域防災訓練では、3年生が防災グッズ作成のデモンストレーションを行い、地域の人々から賞賛いただいた。生徒は発表することの大切さを学んだ。 ・地域クリーン作戦や植栽活動などのボランティア活動に多くの生徒が参加している。 |

| | |
|---------|---|
| これからの目標 | <ul style="list-style-type: none">• 初めての取り組み「異文化相互理解セミナー」では、留学生との交流がうまくできるか不安ではあったが、実際は楽しく活動することができた。異文化に触れることは貴重な体験であり、今後も積極的に交流することが必要であることを学んだ。• 地域合同防災訓練で行った「防災グッズ作り」を受け継ぎ、地域の人々と一緒に作れるようにしていきたい。また、中学生の役割を明確にしていきたい。• 中学生として何ができるか相談し、糸半プロジェクトを発展させ、糸半を小池中学校の代名詞にしていきたい。 |
|---------|---|

日本語を使った国際交流



【個人名】 阿部 詩央里

| | |
|---------|--|
| 活動の目標 | 英語だけでなく、日本語を使ってコミュニケーションをとり、日本、燕市の魅力を発信すること。 |
| 活動の内容 | 孤児院・幼稚園訪問、日本語教室授業アシスタント、伝統文化体験、PR 新聞作成。配布 |
| 活動の成果 | 燕市の PR 新聞を読んでもらった方々に興味を持っていただくきっかけになり嬉しかった。貧しい子どもたちの毎日の生き方に感激し、今の環境を振り返り、感謝することができた。 |
| これからの目標 | 孤児院の子どもたちや、日本語教室の生徒さんたちの学習に対する姿勢を見習い、目標に向かって貪欲に勉強したいと思えた。 |

保育園や特別養護老人ホームでのミニコンサート開催



【団体名】分水高校 吹奏楽部

【代表】小林 春美

| | |
|--------------|--|
| <p>活動の目標</p> | <p>いつも私たちの活動を応援してくださる地域の方々に、感謝の気持ちを込めて、笑顔いっぱいのミニコンサートを開く。</p> |
| <p>活動の内容</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・「特別養護老人ホーム いちごの実」「介護老人保健施設 ぶんすい」「笈ヶ島保育園」でのミニコンサート開催。 （※笈ヶ島保育園での活動は、インフルエンザの流行及び新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い中止） ・事前アンケートをとり、訪問先の方々のリクエストに沿った曲を演奏する。 ・衣装や小物を製作し、楽しい演出で盛り上げる。 ・小物楽器や歌詞カードを用意し、聴くだけでなく参加できるミニコンサートにする。 |
| <p>活動の成果</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・これまで行ってきた演奏会をよりパワーアップさせることができた。アンケートを実施したことや、参加型の演奏会にしたことで、より喜んでいただけるミニコンサートにすることができた。 ・日頃の感謝の気持ちをミニコンサートでお返しすることができた。 ・ミニコンサートという目標があることで、日頃の練習にやりがい生まれ、部活動を充実させることができた。年度途中で新入部員が入り、部員も増えた。 ・参加型の演奏会にしたことで、私たちも楽しく演奏することができ、演奏する側も聴く側も、一緒に楽しくなる方法を考える良い機会になった。 |

| | |
|---------|---|
| | <p>・夏のミニコンサートの後、クリスマス会に招待していただき、私たちの演奏をまた聴きたいと思ってくださったことがとても嬉しかった。</p> |
| これからの目標 | <p>分水地区への感謝の気持ちをこれからも持ち続け、年数回の演奏会を続けていきたい。地域の学校として、地域に愛され、地域とより深くつながれるよう、今後も頑張っていきたい。</p> |

美しい自然が感じられる和菓子で「さんフェア新潟」を応援しよう



【団体名】 吉田高校
 和菓子考案の有志
 【代表】 赤塚 小也夏

| | |
|----------------|---|
| <p>活動の目標</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の御菓子屋と共同で商品開発をする。 ・10月の「さんフェア新潟 2019」で販売する。 |
| <p>活動の内容</p> | <p>5月 地域の御菓子屋「米納津屋」に商品企画の依頼をする。 6月 燕市の特色をもとに、和菓子の案を考える。 7月 職場見学,商品の検討会1, 商品の色調・味の検討会2 (試食会) 8月 商品の色調・味の検討会3 (試食会) →商品の決定 9月 ラベル・シール等の検討会4, ポスターの作成 10月 先行販売 (校内), さんフェア新潟で販売</p> |
| <p>活動の成果</p> | <p>「いろは」という和菓子が完成した。燕市らしさをPRするために、ツバメの焼き印を押すこと、燕市産のお米「つば九郎米」を米粉にして加えること、卵は県産のものを使うことなどこだわった。カステラの緑色と黄色は、春の田植えと秋の実りを表し、間に秋の味覚である栗ようかんを挟んだ。また、商品を手にとってみたいと思ってもらえるようなポスターやラベル作りにも時間をかけた。2日間で400個を売り上げることができ、販売の喜びを得ることができた。</p> |
| <p>これからの目標</p> | <p>商品を作るための工夫や食品衛生、販売方法について学んだ。地元を活性化させるような商品に興味をもち、今後も活動したいと思った。</p> |